

資料編

審議会への諮問及び答申

1. 諮問



志 政 第 7 号
令和7年5月2日

志木市総合振興計画審議会
会長 星野 敦子 様

志木市長 香川 武文

第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構
想）について（諮問）
次の事項について、貴審議会の意見を求めます。

記

第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構想）素案



令和7年8月7日

志木市長 香川 武文 様

志木市総合振興計画審議会
会長 星野 敦子

第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構想）
について（答申）

令和7年5月2日付け志政第7号で本審議会に諮問された第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構想）について、本審議会では5回にわたり審議を重ねた内容（別紙）が反映されており、適正であると判断します。

なお、将来ビジョンで掲げる将来像を実現するため、本審議会の意見については今後も十分に配慮されるよう要望いたします。

別紙

志木市総合振興計画審議会意見

総括

第二次志木市将来ビジョンは、まちづくりの基本的な考え方として次の5つのコンセプトを掲げています。

- ・互いに支えあい、健康に自分らしく暮らせるまち
- ・子育て世代が住みやすいまち
- ・「市民力」が躍動するまち
- ・安全・安心に暮らせるまち
- ・「知りたい」が見つかる、「伝えたい」が届くまち

そして、この5つのコンセプトを基に、10年後の志木市を展望したまちの将来像である

『よりそう想い 広がる絆 いいね！がいっぱい 志木のまち』

の実現に向けて、市民と市が協働してまちづくりを推進していくものとしています。

今後、第二次志木市将来ビジョンに基づき、市民がずっと住み続けたいと思えるようなまち、子育て世帯や若者にとって住みたいと選ばれ続けるまちを目指し、積極的に施策の展開を図ることを期待します。

「将来構想」に対する主な意見

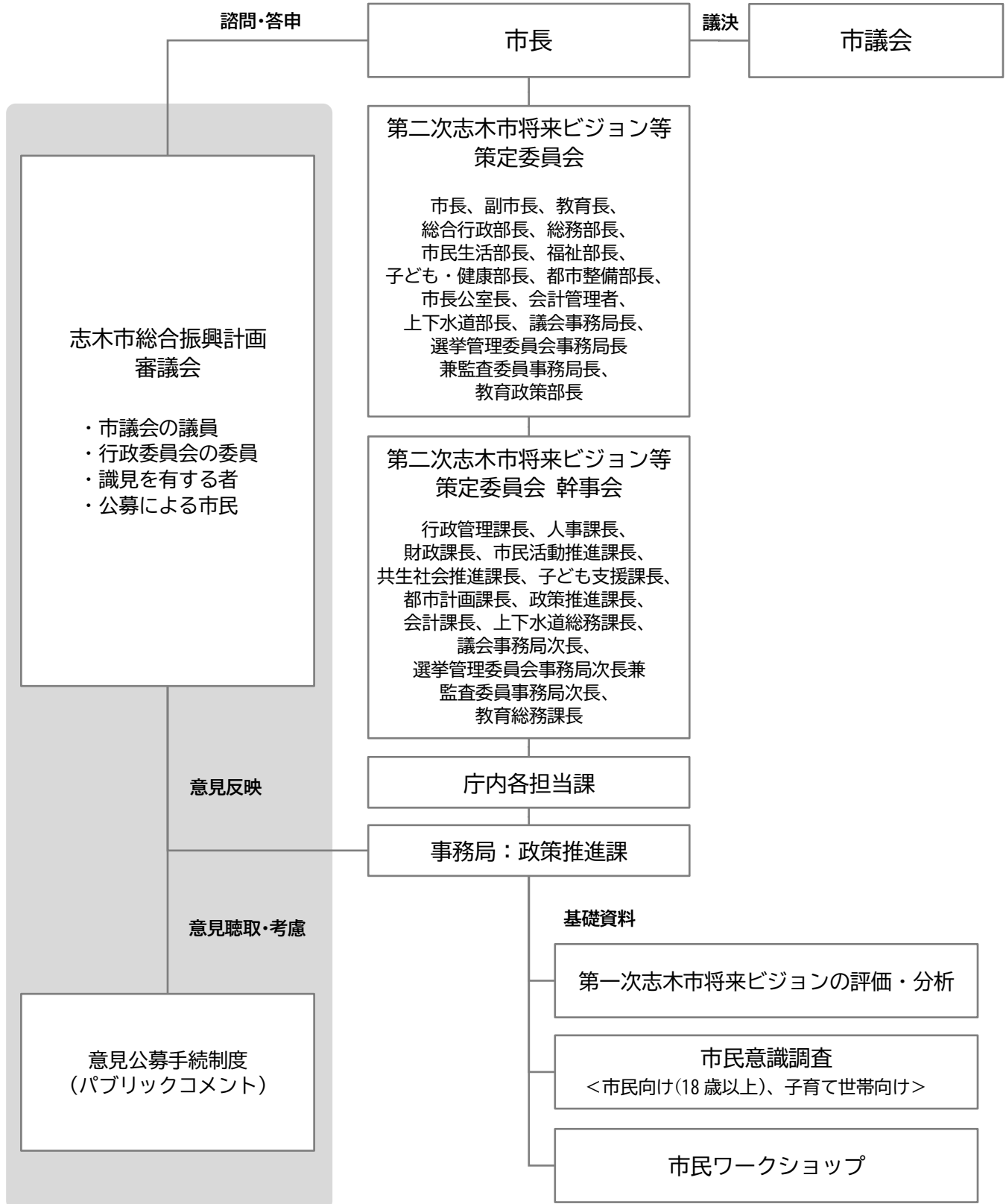
- ・ 市の特色でもある「市民力」の考え方にある「支え合い」の要素に力点を置くこと。
- ・ 子育て世代への取組は非常に重要であるが、高齢者や福祉施策についてもしっかりと盛り込むこと。
- ・ 市域面積が小さいからこそ、「つながり」や「支え合い」等が魅力となる。人間関係の間隔が近いからこそ、「寄り添い」や「関わり合い」が強みになる。コンパクトシティとしての利点を打ち出すこと。
- ・ 人と人との出会いや関わり合いなど、自分の居場所があるまちづくりが重要である。
- ・ 計画期間である10年間という枠に捉われず、「住みやすいまち」を根底に据えること。

- ・ 「子育て世代が住みたくなるまち」について、まず市民が住みやすく子育てをしやすいまちにすることで定住につながり、また、実感した市民の声の発信により「住みたくなるまち」をつくりあげていくという考えのもと「子育て世代が住みやすいまち」に変更されたい。
- ・ 学校のPTAを巡る環境が変わりつつある中、先生と子どもだけでなく親や地域も含めた連携が重要である。地域全体で子どもを育てることで、子どもたちは地域への愛着が深まり、持続可能なまちづくりへとつながる。地域と子どもとの関わりの要素を追加されたい。

「第三期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対する主な意見

- ・ 地方創生のコンセプト【育む】について、「結婚、妊娠・出産」に加え出産後の子育てにも力をいれていくことが重要である。
- ・ 地方創生のコンセプト【暮らす】について、ターゲットを20歳から40歳としているが学生のうちから志木に住み、定住につなげることも必要である。
- ・ 躍進する魅力的な地域づくりには、「人づくり」が重要であるため追加されたい。
- ・ 「住むなら志木市」と思われるまちづくりを進めることが重要である。
- ・ 本計画から第二次志木市将来ビジョン前期実現計画と一体的に策定されている第三期まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策について、示している施策の掲載箇所をわかりやすく示すこと。

1. 策定体制



2. 志木市総合振興計画審議会 名簿

(敬称略、◎会長、○副会長)

選出区分			選出内訳/地域等	氏名
第1号委員	市議会の議員	1	議長	今村 弘志
		2	副議長	吉澤 富美夫
第2号委員	行政委員会の委員	3	教育委員	岩澤 千恵子
		4	農業委員	田中 満男
第3号委員	識見を有する者	5	町内会連合会	竹前 榮二
		6	商工会	関口 清久
		7	(社)朝霞青年会議所	高橋 大輝
		8	武蔵野銀行志木支店	岡田 明彦
		9	十文字学園女子大学	◎星野 敦子
		10	連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	正能 武
		11	社会福祉協議会	中村 勝義
第4号委員	公募による市民	12	幸町	碓 俊美
		13	柏町	大貫 結子
		14	幸町	○大村 相基
		15	本町	小笠原 順子
		16	本町	木下 武三
		17	中宗岡	久保 大地
		18	下宗岡	白川 美津江
		19	下宗岡	那須 博志
		20	上宗岡	抜井 貴之
		21	柏町	松澤 真衣
		22	本町	松波 雪枝

3. 第二次志木市将来ビジョン等策定委員会 名簿

令和7年4月1日現在

役職	職名	氏名	備考
委員長	市長	香川 武文	
副委員長	副市長	櫻井 正彦	
//	教育長	柚木 博	
委員	総合行政部長	外立 健一	
//	総務部長	豊島 俊二	
//	市民生活部長	石塚 匠	
//	福祉部長	中村 修	
//	子ども・健康部長	清水 裕子	
//	都市整備部長	滝田 和浩	
//	市長公室長	松井 俊之	
//	会計管理者	川幡 和広	
//	上下水道部長	青木 裕一	
//	議会事務局長	山崎 仁	
//	選挙管理委員会事務局長 兼監査委員事務局長	篠崎 勉	
//	教育政策部長	今野 美香	

4. 第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会 名簿

令和7年4月1日現在

役職	部局	職名	氏名	備考
幹事	総合行政部	行政管理課長	深町 仁至	
//	//	人事課長	尾崎 誠一	
//	総務部	財政課長	伊東 大祐	
//	市民生活部	市民活動推進課長	佐野 由美子	
//	福祉部	共生社会推進課長	高山 佳明	
//	子ども・健康部	子ども支援課長	清水 陽子	
//	都市整備部	都市計画課長	園原 紘佑	
幹事長	市長公室	政策推進課長	松田 淳	
幹事	会計課	会計課長	川幡 和広	
//	上下水道部	上下水道総務課長	佐藤 英樹	
//	議会事務局	議会事務局次長	小日向 啓和	
//	選挙管理委員会事務局 監査委員事務局	選挙管理委員会事務局次長兼監査委員事務局次長	神田 浩	
//	教育政策部	教育総務課長	成田 樹哉	

第二次志木市将来ビジョンの策定経過

年 月 日	概 要
令和6年 4月 1日	第二次志木市将来ビジョン策定方針決定
令和6年 9月 20日	市民意識調査実施 対象:18歳以上の市民 3,000人 調査期間:9月20日(金)から10月18日(金)まで 子育て世帯向けアンケート調査実施 対象:市内で小学校6年生までのお子さんを育てられている1,500世帯 調査期間:9月20日(金)から10月18日(金)まで
令和6年 11月 6日	市民ワークショップ開催 実施期間:11月6日(水)から11月28日(木)まで
令和6年 12月 16日	第一次志木市将来ビジョン評価・分析、第二次志木市将来ビジョン策定に係る各課ヒアリング実施 実施期間:12月16日(月)から12月25日(水)まで
令和7年 3月 27日	志木市総合振興計画審議会 第1回会議
令和7年 4月 15日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会 第1回会議
令和7年 4月 22日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会 第1回会議
令和7年 5月 2日	志木市総合振興計画審議会 第2回会議 第二次志木市将来ビジョン(第六次志木市総合振興計画将来構想) 諮問
令和7年 5月 7日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会 第2回会議
令和7年 5月 12日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会 第2回会議
令和7年 5月 27日	志木市総合振興計画審議会 第3回会議
令和7年 6月 11日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会 第3回会議
令和7年 6月 17日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会 第3回会議
令和7年 6月 24日	志木市総合振興計画審議会 第4回会議
令和7年 7月 28日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会 第4回会議
令和7年 8月 4日	第二次志木市将来ビジョン等策定委員会 第4回会議
令和7年 8月 7日	志木市総合振興計画審議会 第5回会議 第二次志木市将来ビジョン(第六次志木市総合振興計画将来構想) 答申
令和7年 8月 19日	庁議
令和7年 9月 1日	第二次志木市将来ビジョン(第六次志木市総合振興計画)(素案)についての意見公募実施 募集期間:9月1日(月)から9月30日(火)まで
令和7年 11月 11日	庁議
令和7年 11月 25日	市議会令和7年12月定例会 upper程(第83号議案)・議決

1. 市民意識調査

(1) 調査目的

市政運営の羅針盤となる第二次志木市将来ビジョン(第六次志木市総合振興計画)の策定にあたり、これまでの取組への評価や将来のまちづくりの方向性、市政について、市民から幅広い意見・要望を聴取し、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査概要

調査地域	志木市全域
調査対象	18歳以上の市民 3,000人
調査方法	無作為抽出による郵送配布、郵送回収またはインターネット回収
調査期間	令和6年9月20日(金)～令和6年10月18日(金)
回収結果	有効回収数 929件(うちインターネット回答 235件) 回収率 31.0%

(3) 結果概要

① 定住意向

- 全体の定住意向は72.0%と高く、特に60歳代以上は「ずっと住み続けたい」が最も多い。
- 住み続けたい理由として、本町、幸町、館、柏町は「交通の便がよい」が多く、上宗岡、中宗岡、下宗岡では、「居住環境」や「自然環境」のよさがあげられている。

■ 定住意向(単一回答)

定住意向	件数	割合
ずっと住み続けたい	356	38.3%
できれば住み続けたい	313	33.7%
できれば引っ越したい	73	7.9%
ぜひ引っ越したい	10	1.1%
わからない	162	17.4%
無回答	15	1.6%

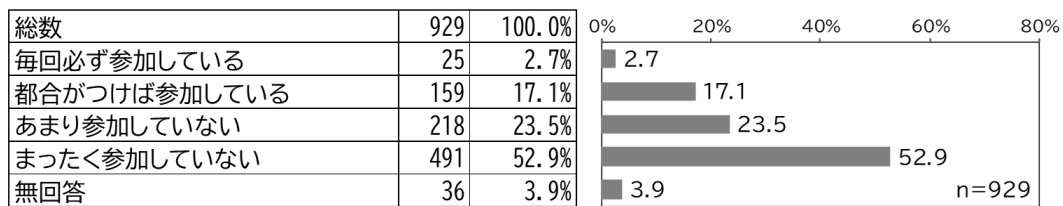
■ 住み続けたい理由(複数回答)《非該当:260件を除く》

理由	件数	割合
交通の便がよい	327	48.9%
居住環境がよい	248	37.1%
自然環境がよい	175	26.2%
買い物が便利である	168	25.1%
災害の危険性が少ない	124	18.5%
人間関係がよい	59	8.8%
医療施設やサービスが整っている	23	3.4%
公共施設が充実している	12	1.8%
地域活動が盛んである	10	1.5%
市民の声を生かしたまちづくりが進められている	9	1.3%
福祉施設やサービスが整っている	8	1.2%
教育環境がよい	3	0.4%
その他	36	5.4%
無回答	2	0.3%

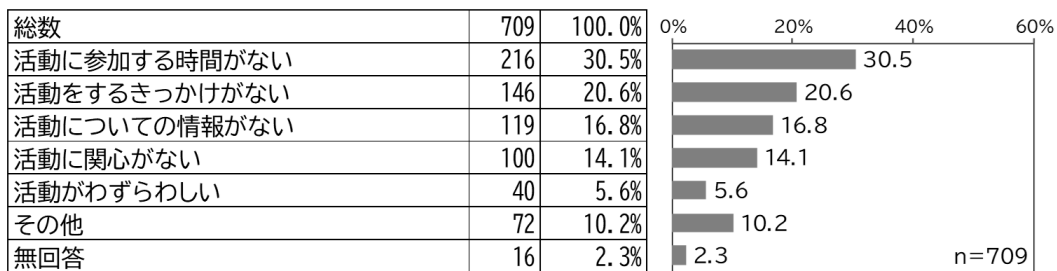
② 市民力

- 地域活動への参加は、年齢別・地域別にみても、ほとんどの属性で「まったく参加していない」が最も多く、参加していない理由としては、「参加する時間がない」ことが多くあげられる。70歳代以上では「参加するきっかけがない」こともあげられており、退職者への情報提供などのきっかけづくりが求められる。
- 市民力を生かしたい活動として、全体では「自然環境の保全や美しい景観づくり活動」が多く、20歳代では「地域の子育て・青少年育成活動」が、30～40歳代では「趣味や経験を生かした文化・教育・スポーツなどの分野での活動」が、50～60歳代では「高齢者世帯への支援や見守り活動」が、70歳代以上では「健康づくりに関する活動」が多くなっている。

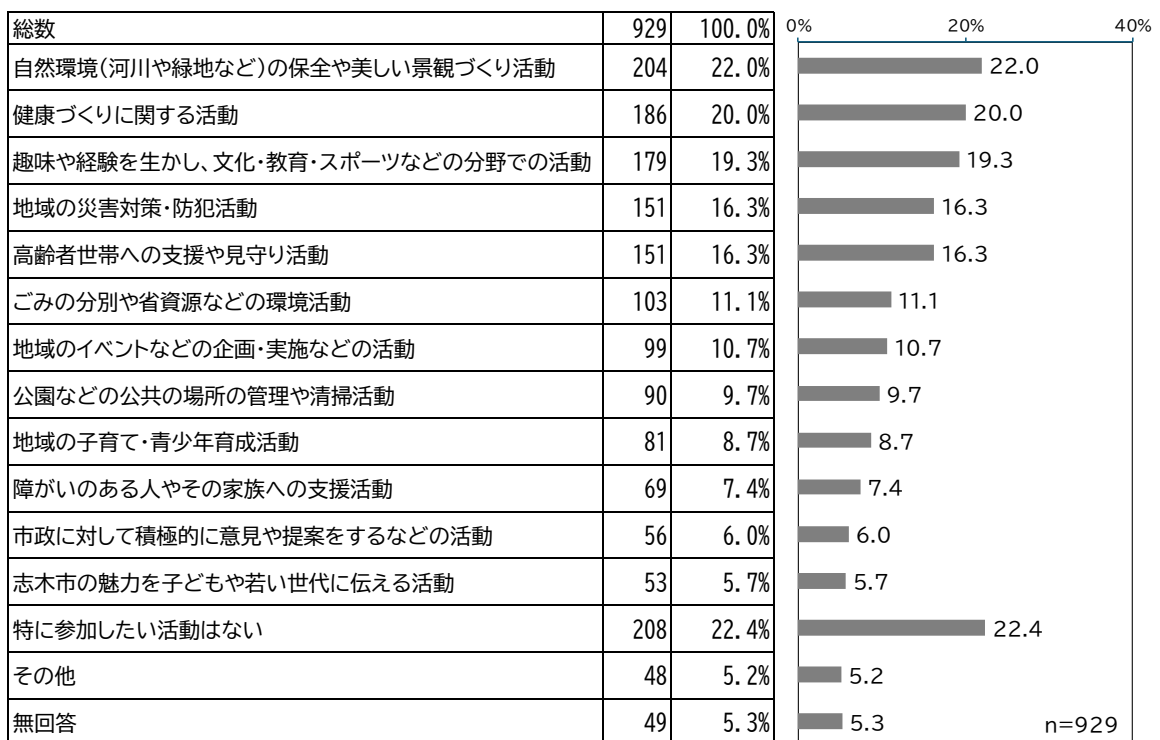
■ 地域活動の参加状況(単一回答)



■ 参加していない理由(単一回答)《非該当:220件を除く》



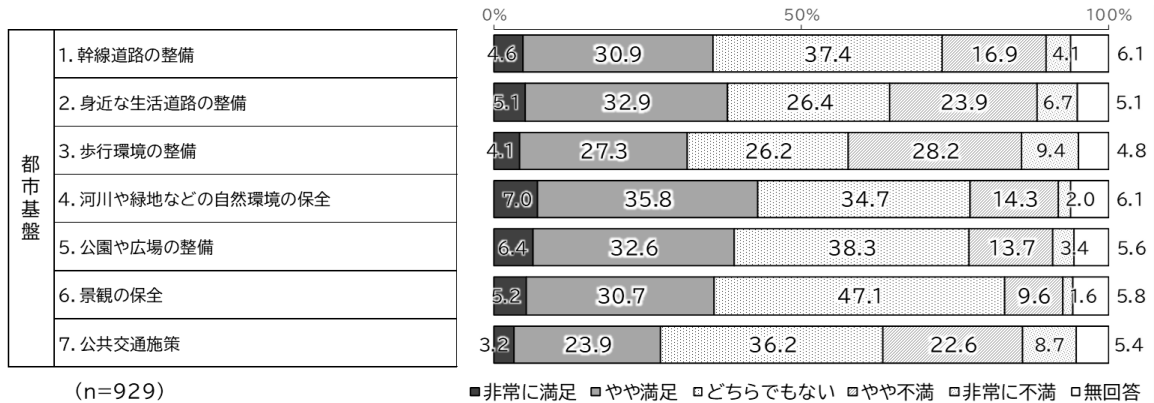
■ どのような地域活動で「市民力」を生かしたいか(複数回答)



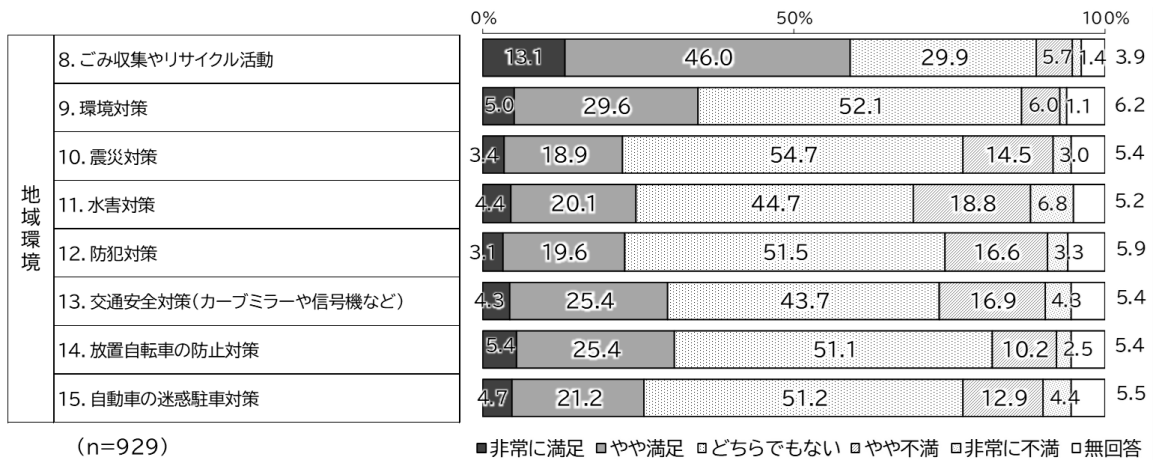
③ 施策の満足度

- 全体では「ごみ収集やリサイクル活動」の満足度が高く、地域別にみると、館では「公園や広場の整備」、「環境対策」、「公民館・図書館などの施設やサービス」の満足度が高い。
- 一方、不満度が高い施策として、「歩行環境の整備」、「公共交通施策」、「身近な生活道路の整備」、「文化・芸術に接する機会・場所」、「水害対策」、「地域の医療施設」があげられる。
- 施策の総合的な満足度は、性別、年代、地域を問わず、「どちらでもない」という意見が多く、更なる改善が必要。

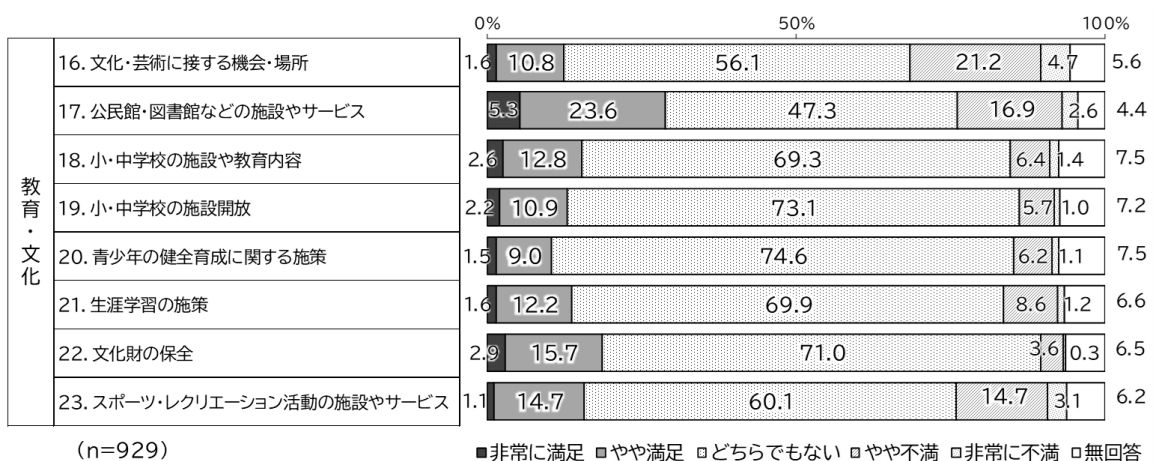
■ 都市基盤に関する満足度(単一回答)



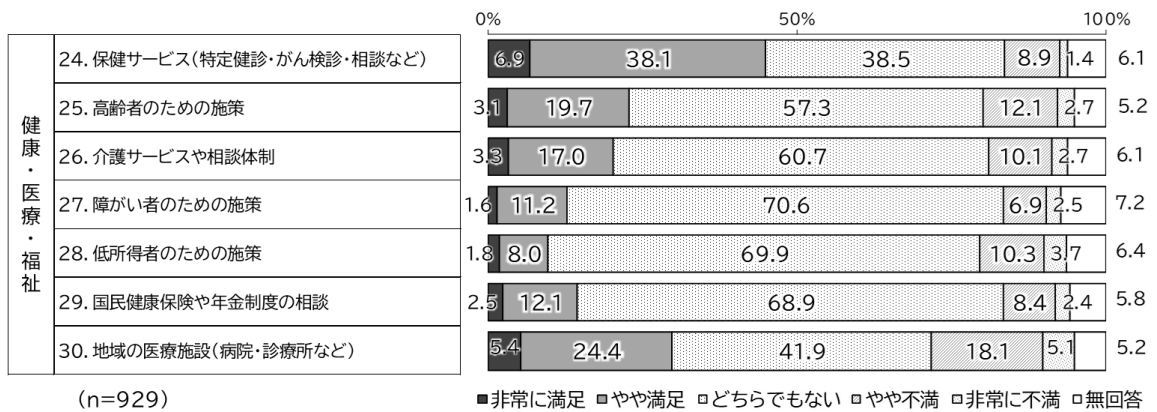
■ 地域環境に関する満足度(単一回答)



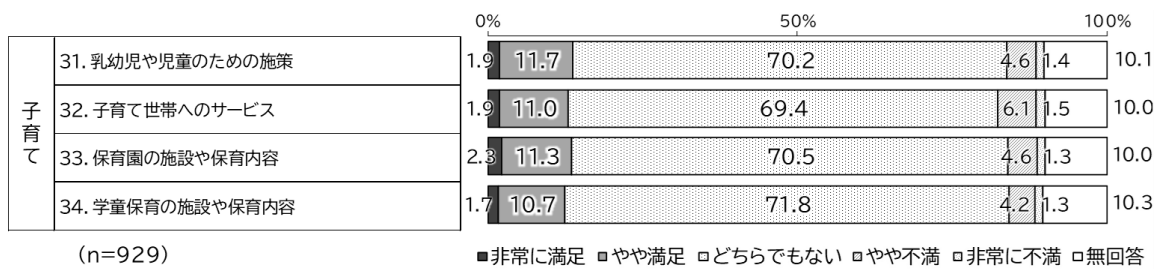
■ 教育・文化に関する満足度(単一回答)



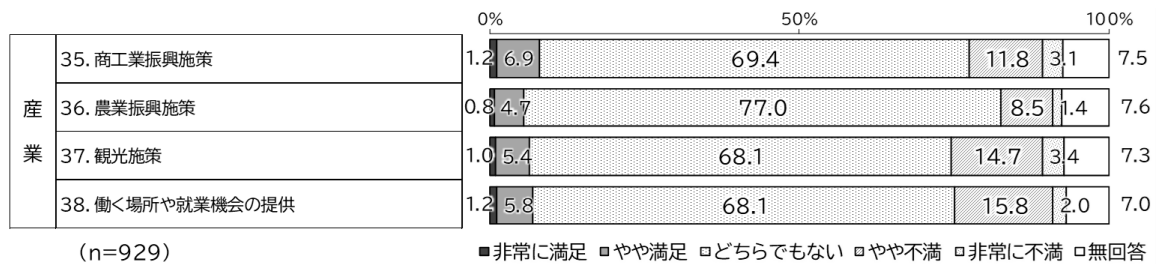
健康・医療・福祉に関する満足度(単一回答)



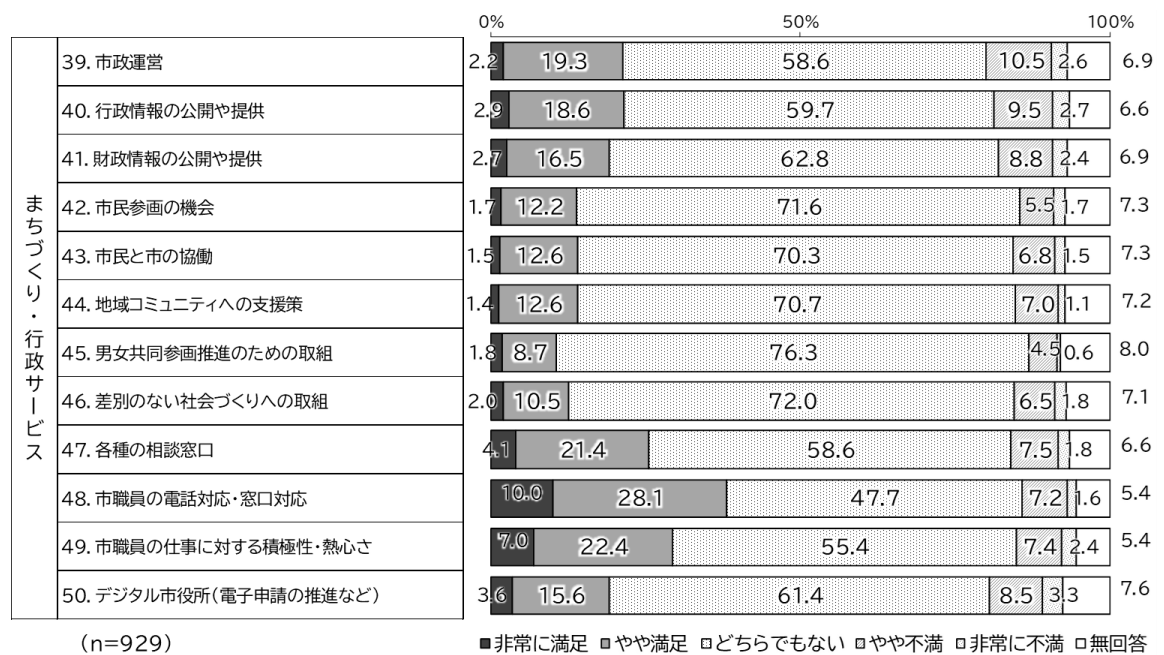
子育てに関する満足度(単一回答)



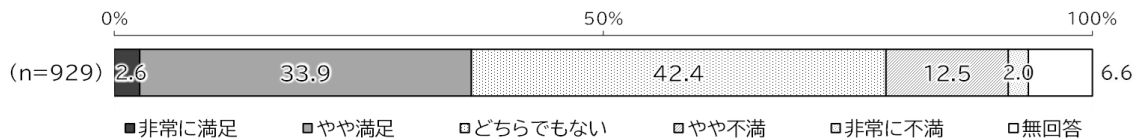
産業に関する満足度(単一回答)



まちづくり・行政サービスに関する満足度(単一回答)



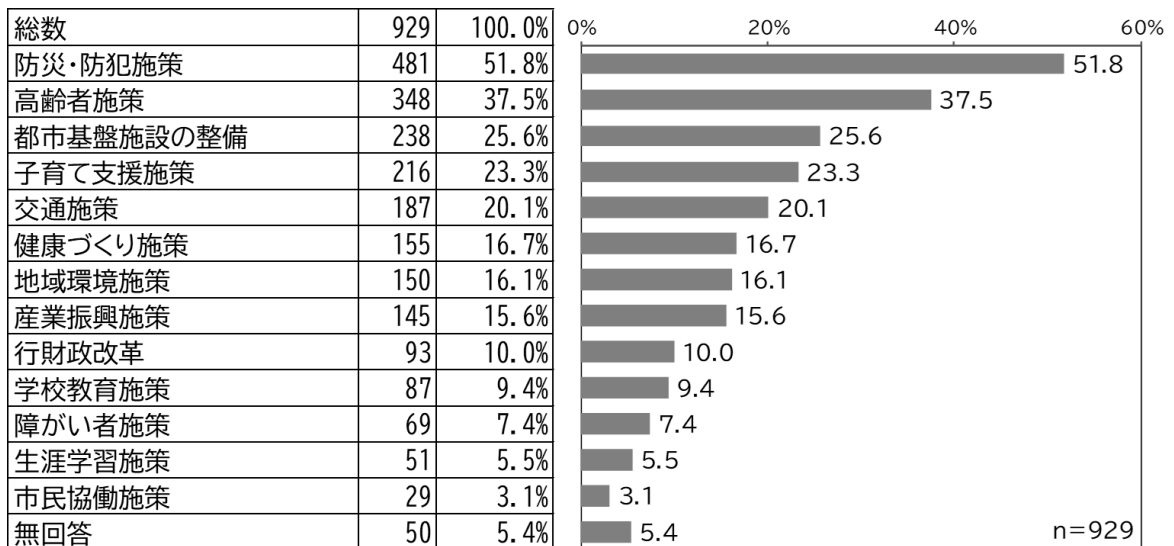
■ 施策の総合的な満足度(単一回答)



④ 重点的に取り組むべき施策

- 全体では、「防災・防犯施策」が最も多く、次に「高齢者施策」が続いている。
- 地域別にみると、すべての地域で「防災・防犯施策」が最も多く、中宗岡・館・柏町では特にその割合が高い。
- 年齢別にみると、10歳代では「学校教育施策」が、30歳代では「子育て支援施策」が、20歳代と40～70歳代では「防災・防犯施策」が、80歳以上では「高齢者施策」が最も多くなっている。

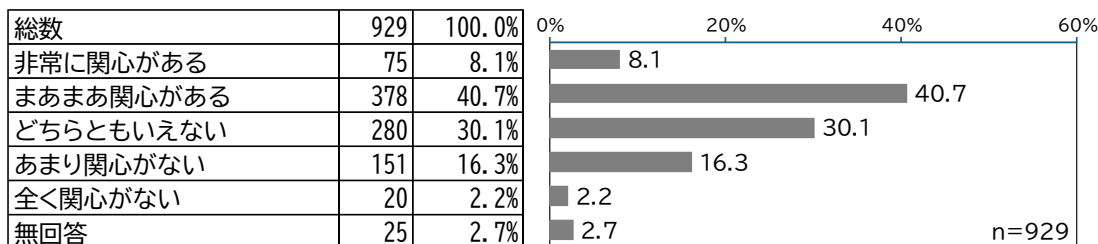
■ 重点的に取り組む施策分野(複数回答)



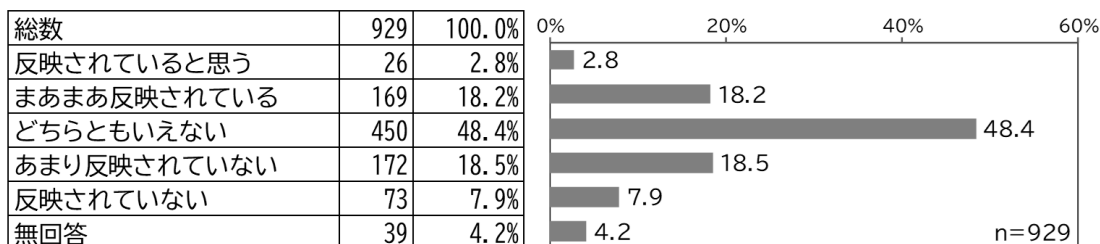
⑤ 市政運営

- 市政への関心度は全体で50%程度。
- 意見や要望の反映は、「どちらともいえない」が年代・地域を問わず多くなっているため、更なる改善が必要。
- 特色ある事業・制度の認知度は、全体的に「志木市いろはウォーキングコース」が高いほか、年齢別では80歳以上で「デマンド交通」が、地域別では、館で「ふれあい館『もくせい』」が高い。
- 普段の買い物の場所は、年代・地域を問わず「志木市内」が最も多い。
- 中心市街地エリアでの商業・サービス業の満足度は、全体・地域別では「普通」が多く、年齢別では10歳代と30歳代で「やや満足」が高い。
- 行政サービスの水準と市民の負担の関係がどうあるべきかでは、「行政サービスの水準も負担も現状維持がよい」が年代・地域を問わず多い。
- 情報の入手方法は、「広報誌『広報しき』」が最も多く、次いで、20～80歳代では「志木市ホームページ」が、10歳代と70～80歳代以上では「知人など」が多くなっている。

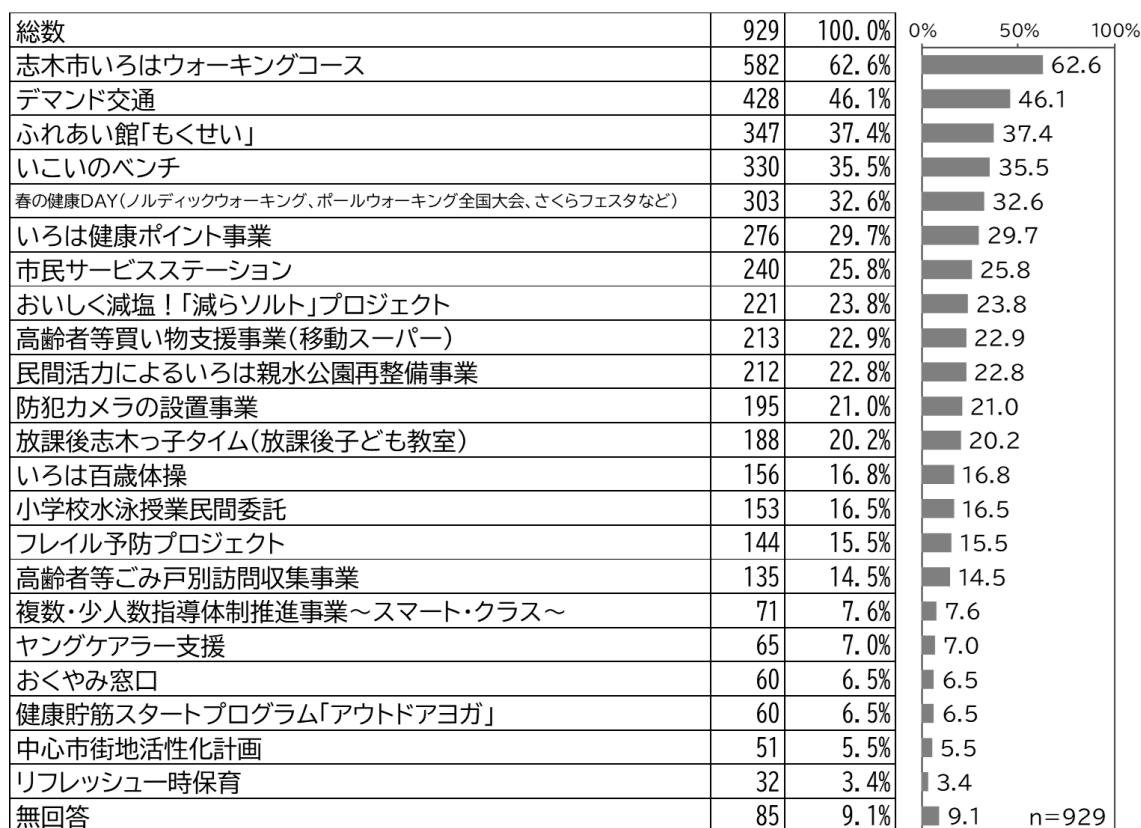
■ 市政への関心(単一回答)



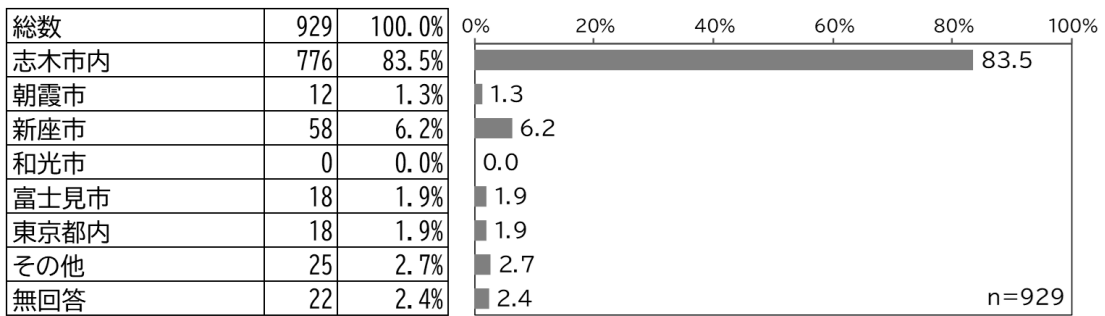
■ 市民の意見要望の反映(単一回答)



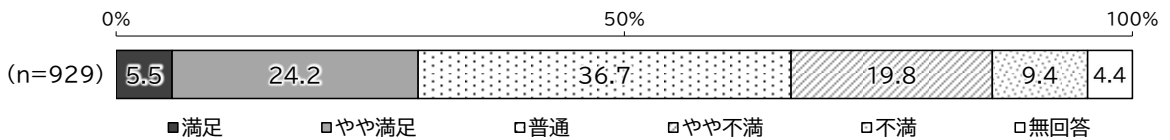
■ 志木市の特色ある制度・事業(複数回答)



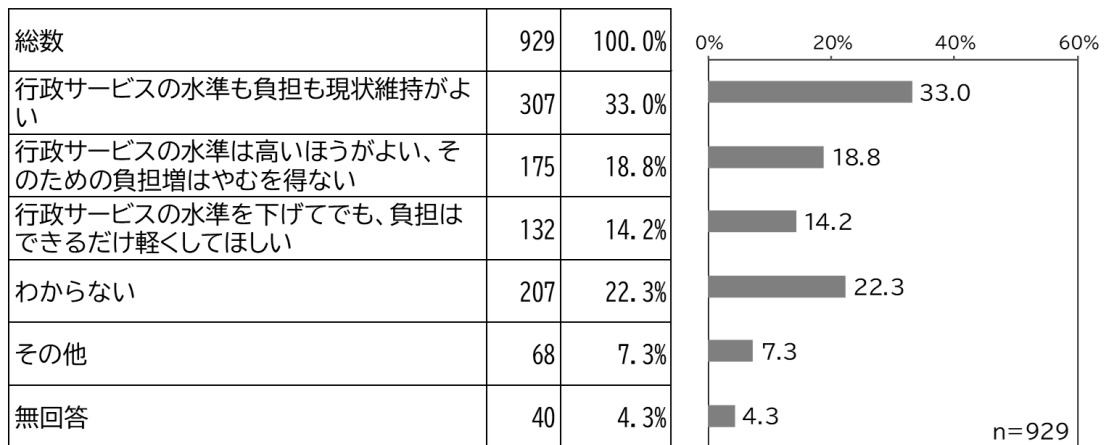
■ 普段の買い物の場所(単一回答)



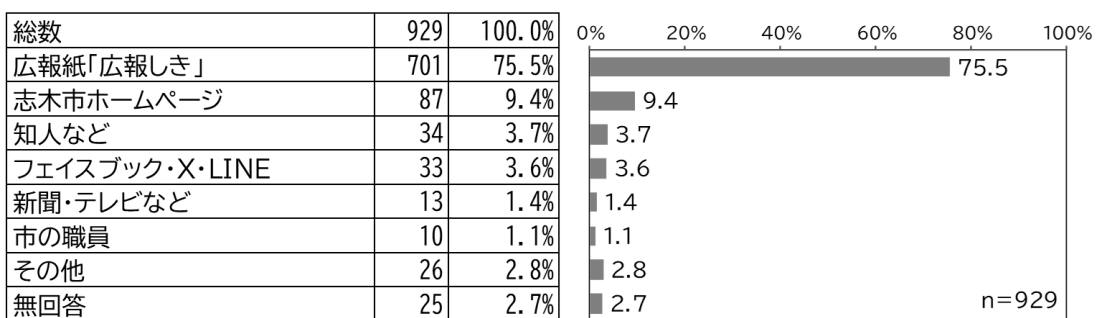
■ 中心市街地エリアでの商業・サービス業の満足度(単一回答)



■ 行政サービスの水準と市民の負担の関係(単一回答)



■ 市の情報の入手先(単一回答)



2. 子育て世帯向けアンケート調査

(1) 調査目的

本市が将来にわたって都市活力を維持していくためには、引き続き“子育て世代”の定住を促進していくことが重要となることから、子育て世代にターゲットを絞り、本市が子育て世代から選ばれるためにはどのような施策・取組が必要なのかを明らかにし、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査概要

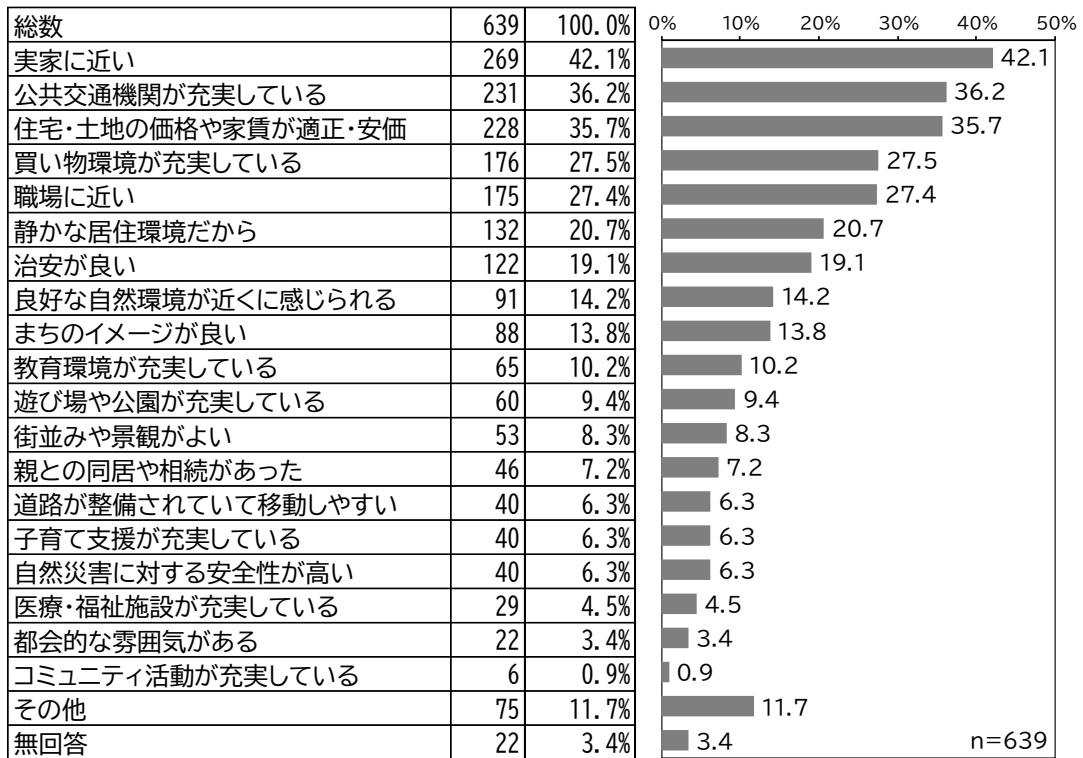
調査地域	志木市全域
調査対象	市内で小学校6年生までのお子さんを育てられている1,500世帯
調査方法	無作為抽出による郵送配布、郵送回収またはインターネット回収
調査期間	令和6年9月20日(金)～令和6年10月18日(金)
回収結果	有効回収数 639件(うちインターネット回答 314件) 回収率 42.6%

(3) 結果概要

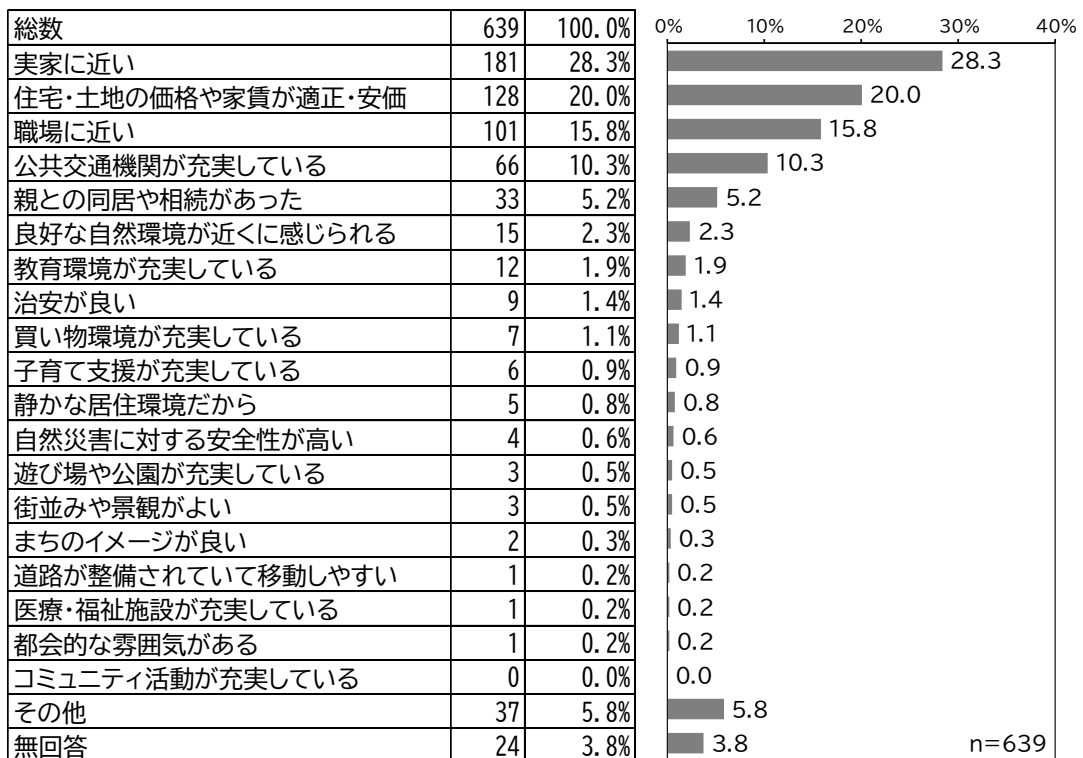
① 居住理由

- 志木市に住むことを決めた理由は「実家に近い」、「公共交通機関が充実している」、「住宅・土地の価格や家賃が適正・安価」、「買い物環境が充実している」、「職場に近い」の割合が高い。
- 最も重視したことでは「実家に近い」が約3割を占めるほか、「住宅・土地の価格や家賃が適正・安価」、「職場に近い」、「公共交通機関が充実している」なども上位を占める。

■ 志木市に住むことを決めた理由(複数回答)



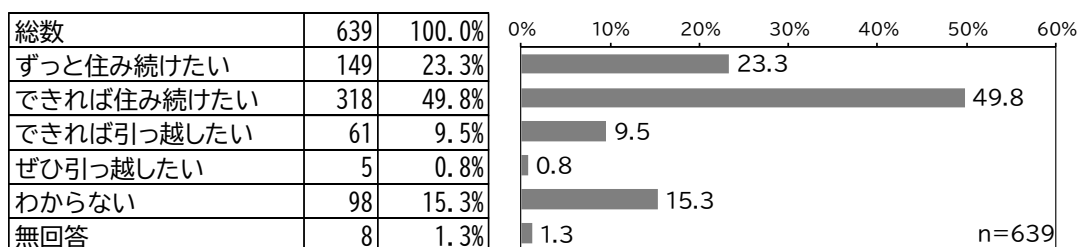
■ 志木市に住むことを決めた理由として特に重視したこと(単一回答)



② 定住意向

- 「ずっと住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計は73.1%を占めており、子育て世帯の定住意向は高い。
- 「できれば引っ越したい」または「ぜひ引っ越したい」との回答は約1割で、その理由は「志木市でないといけない理由がない」、「他自治体の方が子育て支援は充実している」、「公園など遊べる場所が少ない」、「水害に不安がある」などの割合が高い。

■ 定住意向(単一回答)



③ 子どもを持つための必須条件

- 子どもを持つための必須条件では「仕事と子育てが両立できる状態にあること」、「仕事・雇用が安定し、経済状況に余裕があること」、「保育・小児医療の環境が充実していること」の3項目が7割を超えており、特に重要視されている。

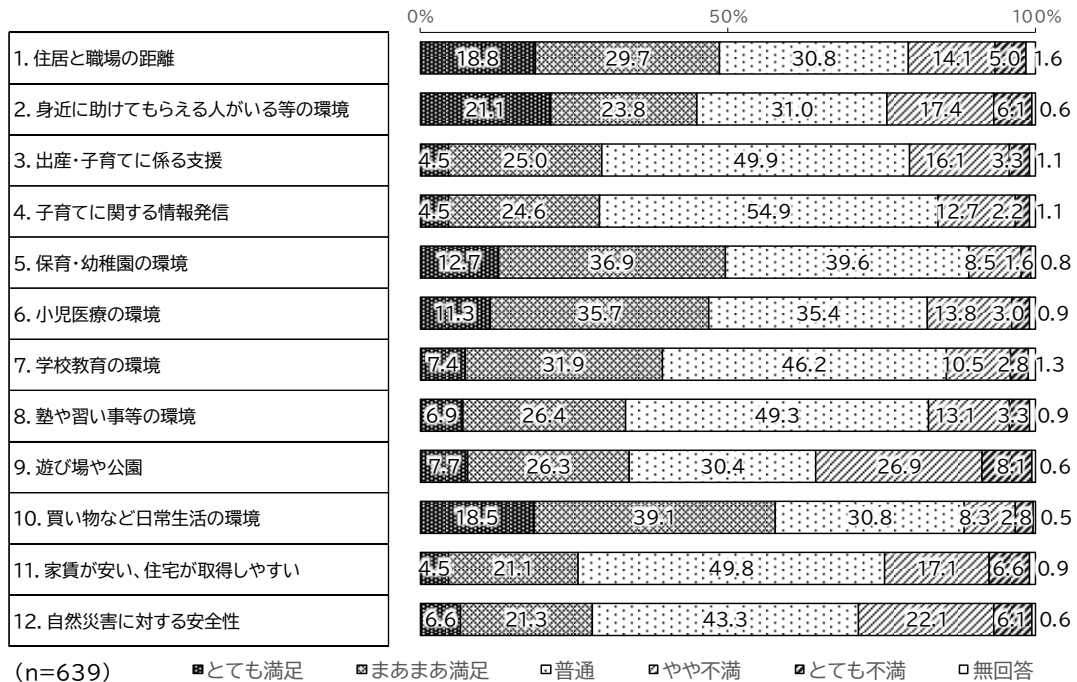
■ 子どもを持つための必須条件(複数選択)



④ 子育て環境の満足度

- 「買い物など日常生活の環境」、「保育・幼稚園の環境」、「住居と職場の距離」、「小児医療の環境」、「身近に助けてもらえる人がいる等の環境」などで満足度が高い。
- 「身近に助けてもらえる人がいる等の環境」は、「とても満足」の割合が 21.1%で最も高い。一方、「やや不満」と「とても不満」の合計も2割を超えており、個人差が大きいことがうかがえる。
- 「遊び場や公園」、「自然災害に対する安全性」は約3割が「やや不満」または「とても不満」と回答しており、定住意向における引っ越したい理由とも共通している。

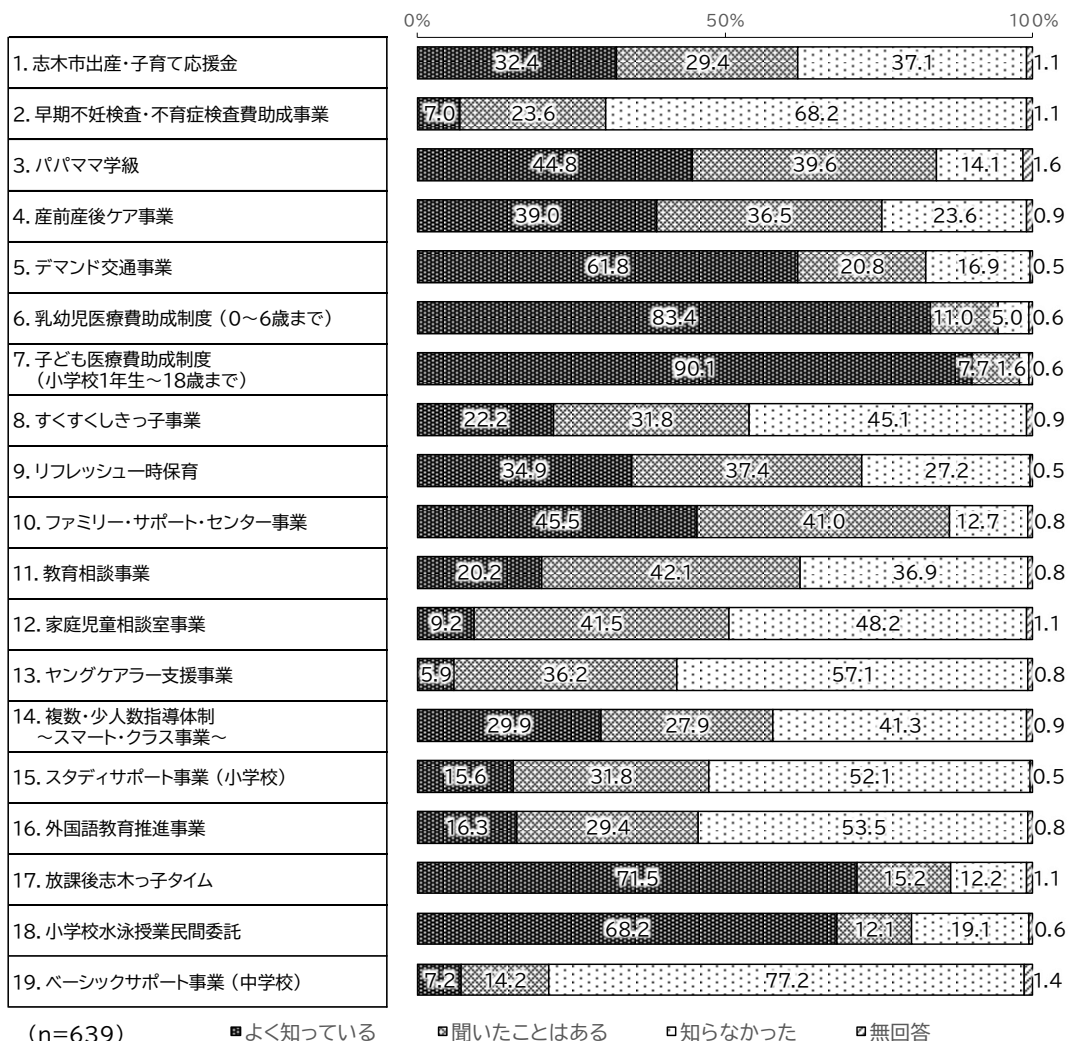
■ 子育て環境の満足度(単一回答)



⑤ 子育て支援施策の認知度

- 「子ども医療費助成制度」、「乳幼児医療費助成制度」の認知度がとくに高く、子供の健康や家計のゆとりにつながる施策への注目度の高さがうかがえる。
- 次に、「放課後志木っ子タイム」、「小学校水泳授業民間委託」など、主に小学生を対象とした施策の認知度が高い。「ベーシックサポート事業」は全体としての認知度は低いですが、中学生の子を持つ世帯での認知度は比較的高い。いずれも対象年齢の子を持つ世帯の認知度が高いことから、必要な世帯へ情報発信ができていていると言える。
- 「早期不妊検査・不育症検査費助成事業」、「家庭児童相談室事業」、「ヤングケアラー支援事業」などはまだ認知度が低く、対象年齢の子を持つ世帯にもあまり認知されていない状況にあることから、更なる改善が必要である。

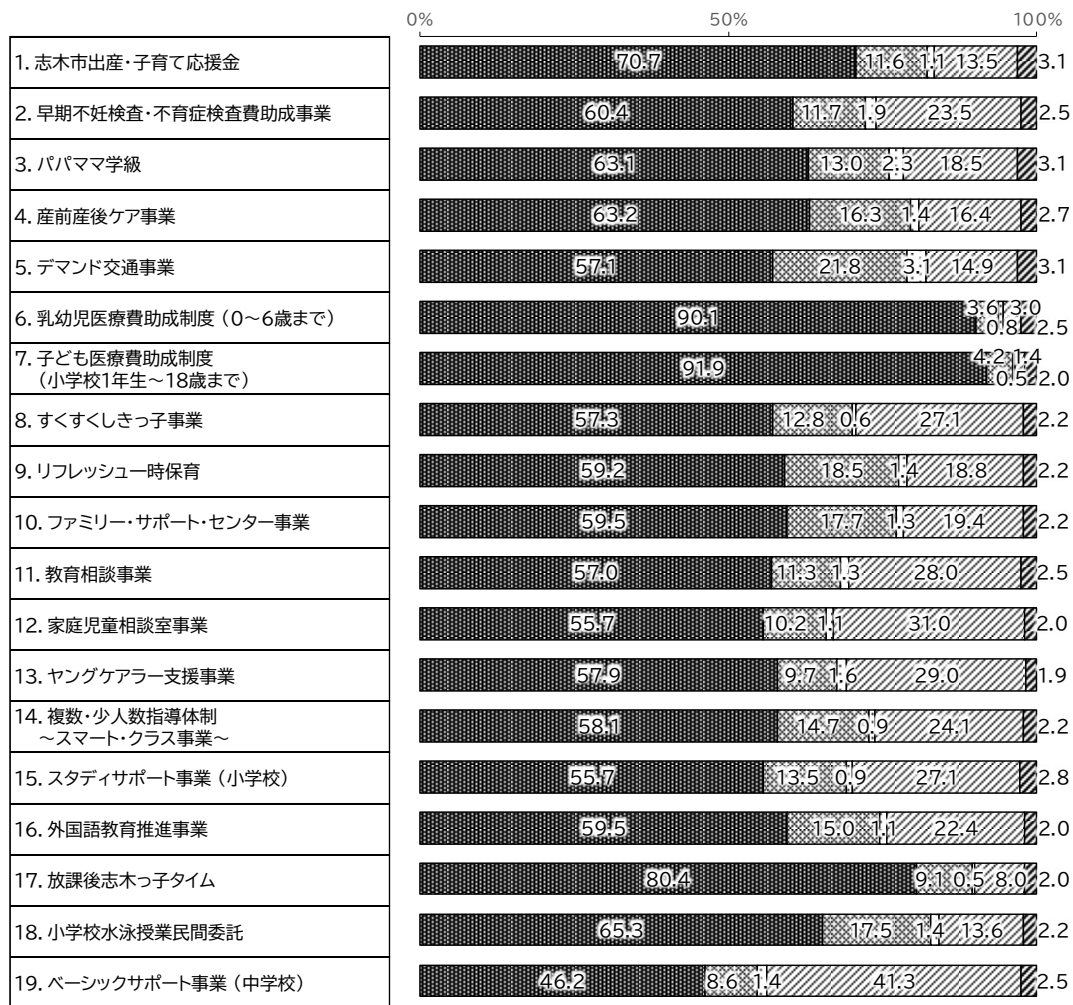
■ 子育て支援施策の認知度(単一回答)



⑥ 子育て支援施策の評価

- 「子ども医療費助成制度」と「乳幼児医療費助成制度」は9割以上、「放課後志木っ子タイム」は8割以上が「今後も必要である」と回答している。その他もほとんどの施策で「今後も必要である」が5割を超えている。
- 「ヤングケアラー支援事業」は、高校生の子を持つ世帯の認知度が全体と比べ低いが、「今後も必要である」と「充実・改善すべき」の割合は全体より高く、周知方法と併せて改善が求められる。
- 「ベーシックサポート事業」は、全体としては「わからない」の割合が高いが、中学生の子を持つ世帯での認知度は高く、「今後も必要である」の割合も高いことから、需要のある施策と言える。

■ 子育て支援施策の評価(単一回答)



(n=639)

■今後も必要である □充実・改善すべき □不要である □わからない □無回答

3. 市民ワークショップ

(1) 開催目的

市民や関係団体の皆様など、本市のまちづくりを支えるメンバーから、本市の生活環境や各種施策に対する意見・課題、新たなアイデア・提案など、市民目線からの生の声を集め、関係部署にフィードバックしながら計画策定につなげることを目的とする。

(2) 開催概要

参加者	公募市民、各回のテーマに関連するまちづくり関連団体の市民、市の若手職員
プログラム概要	<input checked="" type="checkbox"/> ワークショップはワールドカフェ方式で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 前計画の「志木市将来ビジョン」で掲げた5つの基本目標をテーマに、関連分野に対する課題やアイデア、本市がこれから目指すべき方向性について自由に話し合い <input checked="" type="checkbox"/> 各回の成果は、イラストやアイコンを用いてビジュアルに記録する“グラフィックレコーディング”によりとりまとめて参加者全体で共有
開催日程	キックオフミーティング 令和6年11月6日(水) 市長による本市における施策・取組の説明 34名参加 第1回 令和6年11月19日(火) テーマ「市民力が生きるまちづくり」 25名参加 第2回 令和6年11月20日(水) テーマ「市民を支える快適なまちづくり」 23名参加 第3回 令和6年11月21日(木) テーマ「活力と潤いのあるまちづくり」 19名参加 第4回 令和6年11月27日(水) テーマ「未来を支えるまちづくり」 24名参加 第5回 令和6年11月28日(木) テーマ「健全でわかりやすい行政運営」 18名参加

(3) 開催結果の概要

① 第1回 市民力が生きるまちづくり

分野	目指したい姿・方向性
子育て	駅前に親も子どもも集える場、民間参加型の総合施設
	情報発信、届けたい人に届くように
	学校のプールの活用、保育園児の遊び場、親水公園のウォーターパークを増やす
教育	地域住民の力で子どもを育てる街
	市民の学校・教育への参加を充実させる
	子どもと大人の学びのネットワークを作る
高齢者	たくさん居場所があるまち
	コーディネーターの育成(充実)
	キョウイク(今日行く場所がある)、キョウヨウ(今日用事がある)、そういうまちづくり

市民協働	志木市の市民活動をアピール！！
	子どもから参加できるボランティア活動の充実 市民活動フェスの開催
すべての人	愛着がもてるまち
	市民と行政のコミュニケーションの強化 多様な人が集える場を創出



② 第2回 市民を支える快適なまちづくり

分野	目指したい姿・方向性
健康	身近に集える場所づくり 魅力的な健康情報の発信
	だれもが集まれる幸せな場(心のバリアフリー) どんなことでも気軽に相談できる場所があると良い！(ワンストップサービスで)
生涯学習	伝統文化、資源の発信、提案、継承、探求 すべての人(子供、高齢者、外国籍・障がいのある方)交流しながら学べる場 各種団体交流連携
	市民スポーツ交流イベントの開催 スポーツ設備の充実 スポーツ情報発信



③ 第3回 活力と潤いのあるまちづくり

分野	目指したい姿・方向性
産業振興	空き店舗の活用(シェアキッチン等)
	中小企業のつながりの強化(コラボ)
	農地利用方法の拡充(市民農園・子ども食堂)
観光	志木の魅力・良さ再発見・発信
	外国人インバウンド、他県の方の呼び込み
	「五感・体感・ホーム感」
水と緑	川を活かしたまちづくり
	緑を豊かに楽しむ 目で見て楽しいまち 映えるまち
	地域全体で見守ろう
地球環境	水がきれいなまち
	資源を活用したスポットの建設
	次世代へつなぐ廃棄物ゼロ
資源循環	リサイクルのしやすい環境のある街
	意識高いクリーンな街
	フードロスの少ない街



④ 第4回 未来を支えるまちづくり

分野	目指したい姿・方向性
都市基盤	雨水の再利用
	移動しやすいまち
	公園の活性化
交通	死亡事故ゼロ!!の町
	狭い道路でも安全通行が出来るための指導と路面標示等の活用
	公共交通(コミュニティバス含む)の有効活用
消防・防犯	外灯を増やし明るい街 志木を目指す
	安全マップの作成(消火器、AED 設置場所)による安全安心な街作り
	こども防犯パトロール隊の設置による犯罪のない街作り
防災	誰一人とり残さない皆にやさしい防災
	誰もが参加したくなる楽しい防災イベントの充実
	市民の防災意識の向上と情報の共有



⑤ 第5回 健全でわかりやすい行政運営

分野	目指したい姿・方向性
行財政	現状・目標・施策・課題の可視化
	市政への市民参加の推進
	市民と共創した人材育成・確保とその活用
情報発信	若者、子育て世代に向けたSNSの強化(インスタ、ショート動画、公式 LINE)
	高齢者に向けた情報共有の場(集えるサロンの拡充とポイント制の活用)
	市役所による受け手目線に立った情報発信
DX	デジタルが使える人がいるまち
	アナログとデジタル 共存するまち
	手間を省く!!余計な事はしない!まち



4. 意見公募手続

第二次志木市将来ビジョン(第六次志木市総合振興計画)将来構想/前期実現計画/第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、志木市意見公募手続条例に基づき、計画素案を公表し、意見公募(パブリックコメント)を実施しました。

■意見公募期間

令和7年9月1日(月)から9月30日(火)まで

■閲覧場所及び市民意見シートの配布場所

市ホームページ、政策推進課、市民サービスステーション、柳瀬川駅前出張所、いろは遊学館、宗岡公民館、宗岡第二公民館、柳瀬川図書館、いろは遊学図書館





■意見公募の結果

人数……………10人

意見件数……………17件

前期実現計画とSDGsの関係

前期実現計画の具体的施策とSDGsの主な関係は以下のとおりです。

施策の柱	基本的施策、具体的施策	①貧困	②飢餓	③保健	④教育
					
1 誰もが健康で暮らせる共生社会をつくる	1-1 健康、医療				
	1 健康意識の啓発と健康管理の促進			●	
	2 健康的な生活習慣の実践の推進			●	
	3 途切れることのない健康づくりの推進と環境づくり			●	
	4 歯と口腔の健康づくりの推進			●	
	5 食を通じたまちづくり			●	
	6 地域医療体制の充実			●	
	7 国民健康保険事業等の安定運営			●	
	1-2 スポーツ推進				
	1 ライフスタイルに応じたスポーツ習慣・健康づくりの機会の充実			●	
	2 スポーツにかかわるきっかけづくり			●	
	3 スポーツ・レクリエーション活動をささえる環境づくり			●	
	1-3 支えあい、福祉、セーフティネット				
	1 市民力との協働による地域生活課題への対応			●	
	2 重層的な支援体制の充実			●	
	3 生活困窮者等の自立のための環境づくり	●		●	
	4 ひきこもり、ケアラー、家族等支援、孤立・孤独対策			●	
	5 DVのない社会の実現と被害者支援			●	
	1-4 高齢者の生活支援、介護				
	1 健康づくり・介護予防の一体的な推進			●	
	2 地域活動への参加と生きがいづくりの促進			●	
	3 相談・支援体制の強化			●	
	4 在宅生活の継続支援			●	
	5 認知症施策の推進			●	
6 介護保険事業の安定運営と介護保険サービスの向上			●		
2 未来を支える次世代を育む	2-1 子ども・子育て支援				
	1 妊産婦と子ども・子育て世帯への支援			●	
	2 子どもと家庭の健康づくり			●	
	3 子どもの育ちと学びをつなげるための支援				●
	4 子育てと仕事の両立			●	
	5 地域と連携した子育て支援			●	
	2-2 学校教育				
	1 子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばす教育の推進				●
	2 学びの多様化に対応する環境の整備				●
	3 これからの子どもたちに求められる学力・体力の育成				●
	4 地域とともにある学校づくりの発展				●
	5 安全で安心な学校づくり				●
6 快適な教育環境づくり				●	
3 地域の魅力を高める	3-1 産業振興、就業支援				
	1 中小企業の経営支援				
	2 活気ある商工業の振興				
	3 地域農業の活性化		●		
	4 消費者の保護と自立支援				
	5 雇用の創出と就業・就労支援の充実				
	3-2 にぎわい創出、観光				
	1 まちのにぎわい創出				
	2 中心市街地活性化				
3 地域の観光資源の発掘と魅力的な事業の展開					

施策の柱	基本的施策、具体的施策	①貧困	②飢餓	③保健	④教育
					
3 まちの魅力を高め、 地域を活性化させる	3-3 緑地、水辺、公園				
	1 みどり豊かな暮らし				
	2 安全で快適な公園の整備				
	3-4 市民協働、コミュニティ、交流				
	1 市民とともにある市政運営の推進				
	2 市民参加と協働の推進				
	3 地域コミュニティの活性化				
	4 コミュニティ拠点の整備				
	5 異文化理解の促進				
	3-5 生涯学習、文化振興、文化財				
	1 新たな学びのきっかけづくり				●
	2 生涯にわたり学ぶことができる環境づくり				●
	3 学びが生かせるまちづくり				●
4 文化財保存・活用のつながりづくり				●	
4 安全・安心、 快適な暮らしを支える	4-1 都市基盤、住宅、道路、上下水道				
	1 持続可能なまちづくりの推進				
	2 良好な住環境施策の推進				
	3 道路環境の整備				
	4 安全な水の安定供給				
	5 下水道機能の維持向上				
	6 災害に強い上下水道システムの構築				
	4-2 交通利便性、交通安全				
	1 交通の利便性の向上				
	2 交通安全対策の推進			●	
	4-3 防災・防犯				
	1 水害対策				
	2 防災体制の充実				
	3 まちの防災機能の向上				
	4 緊急事態への対応強化				
	5 防犯体制の充実				
	6 消防体制の強化				
	7 空き家等対策				
	4-4 地球環境保全、資源利活用				
1 地球温暖化対策					
2 自然を生かす環境対策の推進					
3 廃棄物の適正処理とごみの排出抑制					
5 持続可能なまちをつくる	5-1 健全な行財政、自治体DX、公共施設マネジメント				
	1 持続可能な行財政運営				
	2 デジタル技術を活用した業務効率化と市民サービスの向上				
	3 適正な人事管理と働き方の推進				
	4 長期的な視点を持った公共施設の最適な配置				
	5-2 情報公開、広報・広聴、シティプロモーション				
	1 開かれた行政の推進				
	2 広報・広聴力の強化				
	3 シティプロモーションの推進				
	4 情報セキュリティの強化、個人情報保護制度の運用				
	5-3 人権、男女共同参画				
1 誰一人取り残されない人権啓発・教育の推進	●	●		●	
2 男女共同参画の推進			●	●	

【数字】

4つの食育の「わ」

本市で推進している、和食文化の和(わ)、人(地域)のつながりの輪(わ)、環境配慮の環(わ)、会話の話(わ)の4つの「わ」をキーワードとした食育。

8050問題

80歳代の親が自立できない事情を抱える50歳代の子どもを生活を支えるために、経済的にも精神的にも強い負担を請け負うという社会問題。

【英字】

ACP

「Advance Care Planning」の略で、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組。「人生会議」とも呼ばれる。

COPD

「Chronic Obstructive Pulmonary Disease」の略で、慢性閉塞性肺疾患のこと。有毒な粒子やガス(主にたばこの煙)の吸入により肺に炎症を起こす進行性の疾患。

ICT

「Information and Communication Technology」の略で、情報技術(IT)に通信(Communication)を加えた情報通信技術の総称。コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア、通信機器などを活用し、情報の収集、処理、伝達、保存、共有を行う技術体系であり、教育、医療、産業、行政など多岐にわたる分野で活用されている。

KPI(重要業績評価指標)

「Key Performance Indicator」の略で、目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。

QOL

「Quality Of Life」の略で、「生活の質」や「生活の満足度」を意味する。

【あ】

アーバンスポーツ

BMX、スケートボード、パークール、インラインスケート、ブレイクダンスなどの都市型スポーツ。

インフォーマルサービス

行政など公的機関や専門職による制度に基づいた支援やサービスではなく、家族や地域住民、同じ経験を持つ人などが無償で提供する、制度に基づかない支援やサービス。

オーラルフレイル

加齢による衰えのひとつで、食物を噛んだり、飲み込んだりする機能が低下したり、滑舌が悪くなったりするなど、口腔機能が低下しつつある状態。

【か】

カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量から、吸収や除去による量を差し引いて、実質的に排出をゼロとすること。再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギー化などにより、地球温暖化の防止を図る取組。

グリーンインフラ

自然環境が有する多様な機能を活用し、災害の軽減、生物多様性の保全、快適な生活環境の形成などを図る社会資本整備の考え方。公園、河川、農地、森林などを有機的に連携させて活用する取組。

合計特殊出生率

女性一人が生涯に産むと予測される子どもの平均数を示す指標。

校内支援ルーム

中学校に設けられた、生徒が安心して学び・過ごすためのスペース。不登校や情緒面の不安、学習上のつまづきなど、多様な課題を抱える生徒が自分のペースで学べる環境を提供するために設置され、不登校対策支援員などが支援にあたる。

国土強靱化

災害に対する事前の備えとして、最悪の事態を念頭に置いて、人命を守り、経済社会が致命的な被害を受けず、被害を最小化して迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた安全・安心な国土・地域・経済社会をつくっていくための取組。

こども家庭センター

すべての妊産婦と子育て世帯、子どもを対象とした母子保健と児童福祉の一体的な相談支援を目的とした、子育て支援の総合相談窓口。

こども誰でも通園制度

すべての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらずい形での支援を強化するため、現行の幼児教育・保育給付に加え、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付。

コミュニティ・スクール

学校運営協議会制度。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。

コンパクト・プラス・ネットワーク

人口減少社会において、居住や生活機能を一定の拠点に集約(コンパクト化)し、拠点間を公共交通などで結ぶネットワークを形成する考え方。持続可能で利便性の高い都市構造の実現を目指す都市政策の方向性。

【さ】

シェアサイクル

都市内に設置された複数のサイクルポートにおいて、自転車を借りたり返却することができる仕組み。公共交通の機能を補完し、観光振興や地域の活性化等に資するなど、公共的な交通手段として位置づけられている。

自治体DX

DXは「Digital Transformation」の略で、デジタル技術を活用して行政サービスや組織のあり方そのものを変革する取組。行政サービスの単なるデジタル化ではなく、行政事務の業務フローを見直し、職員の業務負担の軽減や住民サービスの利便性向上を目指す。

シティプロモーション

地方自治体などが地域の魅力を戦略的に発信し、観光客や移住者などを呼び込み、地域活性化や持続可能なまちづくりを目指す活動。単なる広報活動にとどまらず、地域のブランドイメージ向上、交流人

口・定住人口の増加、地域経済の活性化などを目的とし、観光振興、住民協働、移住促進など、さまざまな取組を包括する。

市民力

市民が持っている知識や経験、熱意や人のつながり等、一人ひとりの力。

小1プロブレム

小学校に入学したばかりの1年生が新しい環境にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態。

主観的健康感

自身がどの程度健康だと感じているかを主観的に評価する指標。

【た】

タイムライン(防災行動計画)

災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画。国、地方公共団体、企業、住民等が連携してタイムラインを策定することにより、災害時に連携した対応を行うことが可能となる。

地域共生社会

子ども、障がい者、高齢者、生活困窮者など、必要に応じて住み慣れた地域で福祉的な支援やサービスを受けながら、それぞれの立場や状況に関わらず、互いに理解し、尊重し、支え合う社会のこと。

本市では、令和5年4月に、わかりあい、支えあい、誰もが輝く社会を実現するため、「志木市地域共生社会を実現するための条例」を施行した。

チームオレンジ

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーター(基本となる認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ講座を受講した者)を中心とした支援者をつなぐ仕組み。

地産地消

地域で生産された農林水産物(食用に供されるものに限る。)を、その生産された地域内において消費すること。

中心市街地活性化基本計画

「中心市街地の活性化に関する法律」に基づき、中心市街地における都市機能の増進、経済活力の向上を推進するため、市町村が、商工会等で構成される協議会と連携して作成する計画。国の認定を受けた計画に対しては、関係府省庁が連携して重点的に支援を行う。

重複頻回受診・重複多剤服薬

「重複頻回受診」は、同じ病気で複数の医療機関を受診したり、同じ病気で同じ医療機関を短期間に何度も受診すること。「重複多剤服薬」は、複数の医療機関で処方された同じ効能・成分の薬を服用したり、必要以上に多くの種類の薬を服用している状態。

デジタルデバイス

インターネットやパソコン等の ICT(情報通信技術)を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

デジタル田園都市国家構想

地方創生の一環として、デジタル技術を活用して地方の活性化を図る国家戦略。地域の特性を生かし、住民の生活の質の向上や地域経済の活性化を目指す。

デマンド交通

固定された路線や時刻表がなく、多様な運行形態により利用者の予約に応じて運行する地域公共交通サービス。志木市では既存タクシーを活用して、自宅と共通乗降場又は共通乗降場間を低額で利用できる事前連絡制の公共交通サービスとして実施している。

【は】

ポリファーマシー

単に服用する薬の数が多くだけでなく、多くの薬を服用しているために副作用を起こしたり、きちんと薬が飲めなくなったりしている状態。

不読率

1か月間に本を1冊も読まない児童・生徒の割合。

【ら】

立地適正化計画

持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するため、市町村が必要に応じて策定するマスタープラン。持続可能なまちづくりに向けて、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能を誘導する区域や施策等を位置づける。

令和の日本型学校教育

文部科学省が掲げる、時代の変化に対応した新しい学校教育のあり方。主体的・対話的で深い学びを重視し、個性を尊重した教育の推進を目指す。具体的には、GIGA スクール構想の実現や ICT を活用した学びの充実、教員の専門性向上などが含まれる。

第二次志木市将来ビジョン
(第六次志木市総合振興計画)
将来構想/前期実現計画
第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行：令和8年3月

編集：志木市 市長公室 政策推進課

〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

電話：048-473-1111（代表）

<https://www.city.shiki.lg.jp/>

